

平成30年度第2回被災地防災研修会 11.30

宮城教育大学 附属防災教育未来づくり総合研究センター

現職の先生方を対象とした平成30年度第2回被災地防災研究会 石巻市・南三陸町 が開催されました。

今回は、岩手県1名、福島県8名、宮城県19名、計28名の先生方と宮城教育大学学生4名、事務局3名の総勢35名の研修会になりました。校種は小学校から高等学校、教育委員会まで、職種も校長先生から教諭、指導主事と幅広い層の教職の関係者に参加いただきました。

仙台から大川小学校までのバスの中で、自己紹介を兼ねて、今回の研修会への参加目的や各自の震災時の経験などを発表しました。

大川小学校跡地で震災・津波への対応を考え、戸倉小学校跡地から戸倉小学校児童・保育所の子どもたちが避難した宇津野高台、五十鈴神社まで歩き、ここまで津波が来たのかという、実際に来てみなければ感じとれないことを学びました。その後、戸倉公民館になっている、1階の天井まで津波の来た戸倉中学校跡地を訪ねた後、300名の方々の命を救った高野会館、防災庁舎を見て、最後は、ホテル観洋で参加した先生方の中に学生も入れていただき情報交換会を行いました。学生は、現職の先生方の子どもたちを守るために何をなすべきかという熱い思いを感じることができました。感想には、教員と学校は大切な命をあずかっている以上、最善を尽くすことが求められるし、使命でもある。最善を尽くすためには、普段から些細なことにも目を向け「もしも」を意識していくことが大切だと感じた、と綴ってありました。



参加した先生方、語り部伊藤さんとスタッフ



大川小学校跡地 津波は二階の天井まできた



大川小学校裏山



児童・園児が避難した、五十鈴神社に向かう津波は鳥居の下まできた



戸倉小学校・保育所の児童園児が一晩過ごした五十鈴神社



300名を救った高野会館、津波は屋上ぎりぎりまできた



高野会館内部、津波の破壊力の強さが分かる

参加者のアンケートから

【先生方の研修へ参加した理由】

- 東日本大震災を子どもたちに伝えていく上で、自分の目で確かめたかった。
- 新聞やTV等で報道されていた現場を目で見て確認し、報道で持った疑問を明らかにしたいと思ったことと、その時自分だったらどう判断して動くことができただろうかという思いを解決したいと思ったから。加えて、今後、職責を果たしていくために役立てたいと考えたから。
- 震災後、約8年が過ぎ、教職員間でも防災の意識が低下しているように思えた。被害の現場を再確認し、それを教職員に伝えようと思い参加した。



高野会館屋上から防災庁舎を臨む

【研修へ参加して、満足した理由】

- 体験こそ最も重要であり、自身の指導の宝になったからです。
- 話で聞いていたことと、現地を見ることは大きく違いました。語り部の方の話など、当時の緊迫した状況、ことの重大さや判断の難しさを感じることができました。
- 現地を視察し、実際に話を聞くことで、現場の苦悩や大変さがよく分かりました。また、子どもたちに何を伝えるべきか、はっきりと分かりました。

【研修へ参加しての感想】

- 大変有意義な時間になりました。本物を体験する事の圧倒的な説得力に改めて気づかされました。
- 実際に見てみなければ分かり得ないことや被災された方々の心情が見えてまいりました。最善を尽くすことや危機意識を高くしていくことが防災、減災を考える上で大切ではないかと考えました。今回の研修を生かし、生徒や本校の職員に伝達、共有していきたいと思えます。



先生方に学生を交えた情報交換会

研修会の振り返りやご自身の体験など時間が足りないくらいの話し合いでした